

第4回 香美市まちづくり委員会ワークショップ 視察報告書

2015年8月26日(水) 9:30~16:30 at 高知市内

「協働の取り組みを学ぼう」

【目的】

提言を実現させるために、市民主体あるいは市民と行政協働の取り組み事例を学んだり、活動をサポートするために高知県や大学がどのようなしくみを持っているのかを学ぶ。

【行程】

- 09:00 香美市役所集合
- 09:40 「ココプラ」到着、学習と意見交換のワークショップ
 - ・産学官民連携センター（ココプラ）について
 - ・地域支援企画員／集落活動センターについて
 - ・地域教育研究センター「域学共生」について
- 12:00 昼食
- 13:00 「高知こどもの図書館」視察
- 14:00 「市民活動サポートセンター」到着、学習と意見交換のワークショップ
 - ・高知市のまちづくりについて
 - ・高知市市民活動サポートセンターと
NPO 高知市民会議の取り組みについて
- 16:30 高知市を出発し香美市役所へ移動
- 17:10 香美市役所到着、解散

配布資料

- ・第3回報告書
- ・行程表
- ・視察先資料
- ・アンケート



産学官民連携センター（ココプラ）について

平成27年4月1日に県の機関としてオープンした、産・学・官・民が自由に集まり、交流し、議論し、新しいことを生み出す場。県内すべての大学などのコーディネーターが駐在し、交流を促す空間を持っている。ここでは①アイデアをビジネスにつなげる仕組み②学びの場の創出を主な取り組みとして活動をスタートさせており、それらの狙いや内容についてプロジェクトマネージャーの片岡千保さんからお話を伺った。

話題提供者

片岡千保さん／高知県産学官民連携センター (kocopla) プロジェクトマネージャー兼チーフ (交流・連携担当)

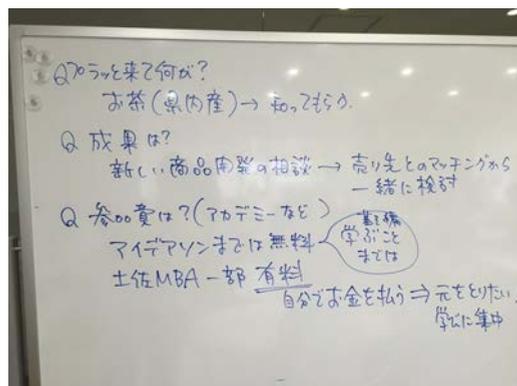
【ココプラ認知度旗揚げアンケート】

※参加委員と香美市役所事務局メンバーらに5色のカード（旗）を配り、話を伺う前に「認知度」を全体で確認してみた。

- よく知っている 2
- TV、新聞でみた 11
- 名前だけ知っている 6
- 全く知らない 9
- その他 2（ネットで調査済み）

この認知度を踏まえて、片岡さんには「まったく知らなかった」参加者にも理解が深まるよう、資料映像を元にお話頂いた。

■	よく知っている	2
■	TV、新聞でみた	11
■	名前だけ	6
■	まったく知らない	9
□	その他 ネットで調査	2



Q. プラッと来て何が出来る？

A. 先日ここに集まった方々から、県内産のお茶を置くなどして「知ってもらおう」場にしてはどうかと提案してもらった。早速取り入れてみる予定。このように、なんでもない事でもアイデアを形にしていくことをやっていきたいので、是非プラッと来て小さなことでもアイデアを発信して欲しい。

Q. 成果は？

A. 新しい商品開発の相談があり、売り先とのマッチングから一緒に検討を始めたところ

Q. 参加費は？（アカデミーなど）

A. 基礎を学んだりアイデアソンまでは無料であるが、土佐まるごとビジネスアカデミーなど一部は有料。自分でお金を払うことで「元を取りたい！」という気持ちが生まれ学びに集中！

地域支援企画員について

平成15年から始まった地域支援企画員の取り組みは、スタート時点での7名から強化を重ねて現在60名態勢で行われている。県内の各市町村役場に駐在し「地域づくり支援のワンストップ窓口」としての役割を担っている。重点的な取り組みは◇地域アクションプランの推進◇移住促進の取り組み◇集落活動センターの立ち上げ・運営支援◇小さなビジネス・拠点ビジネスの発掘と育成◇地域の人づくりなど。

【地域支援企画員認知度アンケート】

- よく知っている 5
- 接したことはある 3
- 名前だけ知っている 12
- 全く知らない 9
- その他

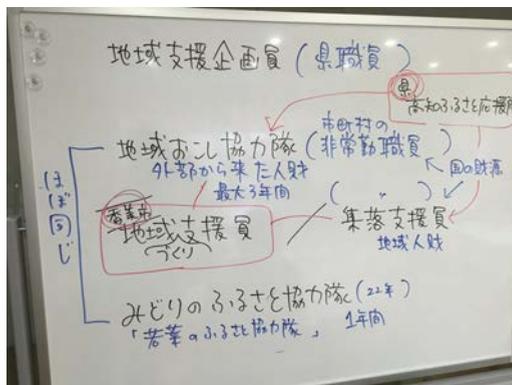
この結果に「12年間も地域で活動しているにもかかわらず、この認知度の低さは反省すべき割合」と東谷さん。

「産業振興計画」についても認知度を調べてみたところ、このような結果。

- よく知っている 10
- 名前だけ 13
- 全く知らない 4

話題提供者
東谷興正さん／高知県計画推進課
地域支援企画員
(物部川地域本部総括)

■	よく知っている (10)	5
■	接したことはある	3
■	名前だけ (13)	12
■	まったく知らない (4)	9
□	その他	0



「地域おこし協力隊など似た名前があって混乱する」との声があり、整理するために書きだしたところさらに混乱。

- A 高知県が市町村に駐在させているのが**地域支援企画員** (=県職員)
 - B 国の財源で3年間市町村の非常勤職員としてきている外部から来た人材が**地域おこし協力隊**
 - C 国の財源で市町村の非常勤職員となった地域の人材が**集落支援員**
 - BとCを高知県は**高知ふるさと応援隊**と総称
 - BとCを香美市では独自に**地域づくり支援員**と総称
 - D 地域おこし協力隊とほぼ同じ役割で1年間活動する**みどりのふるさと協力隊**
 - E みどりのふるさと協力隊より短期(数日~数週間)で活動しているのが**若葉のふるさと協力隊**
- 「地域の人にとってはみんなあ同じに見えてわけがわからん」という感想が聞かれた。

集落活動センターについて

中山間地域が抱える（１）人口の減少（２）高齢化の進行という２つの大きな課題に対して、地域ぐるみで取り組む仕組みとしてスタート。地域住民が主体となって、旧小学校や集会所を拠点とし、生活や福祉、産業づくり、防災活動など地域ニーズに応じた取り組みが出来る仕組みづくりを目指している。

【集落活動センター認知度アンケート】

- よく知っている 9
- 名前だけ知っている 約20
- 全く知らない 1
- その他

<input checked="" type="checkbox"/>	よく知っている	9
<input checked="" type="checkbox"/>	名前だけ知っている	約20
<input checked="" type="checkbox"/>	全く知らない	1
<input type="checkbox"/>	その他	

Handwritten notes on the whiteboard include: (みやの里) 大宮産業 (西土佐) 農協撤退 → 機能維持 集落住民が株主. Below the '名前だけ' row, it says '汗見川(本山) EX 地域内交流 福祉サービス'.

話題提供者

東谷興正さん／高知県計画推進課

地域支援企画員

(物部川地域本部総括)

先行する集落活動センターについて、いくつか紹介された。

◇本山町汗見川地区／集落活動センター「汗見川」は「汗見川ふれあいの郷 清流館」を中心に地域内のみならず地域外交流も盛んに行われている。また福祉サービスにも取り組んでいる。平成24年6月17日開所。

◇四万十市大宮地区／大宮集落活動センターみやの里の拠点は「(株)大宮産業」。農協が撤退した後に機能の維持を目指して集落住民が株主となって誕生。集落活動センターとしての活動は平成25年5月26日スタート。

この他、現在高知県内では18箇所で運営されている。

域学共生～大学が地域を変える、地域が大学を変える～

巨大地震・津波対策、少子高齢化、中山間地域対策などなど、高知県は「課題先進県」でありその解決に向けてまさに待ったなし！の状況と切り出した清原さん。地域を学びの場にする県民大学を目指そうと、学内で様々な仕組みを立ち上げている。新たな地域志向の理念として「域学共生」を打ち出し、今後のビジョンを熱く語り聞かせてくれた。

【域学共生認知度アンケート】

- よく知っている 4
- そこそこ知っている 8
- 名前だけ知っている 7
- 全く知らない 8
- その他 1

色	認知度	人数	備考
赤	よく知っている	4	よくわかった
黄	そこそこ知っている	8	そこそこわかった
青	名前だけ	7	名前だけわかった
緑	まったく知らない	8	
白	その他	1	

(清原さん談)

学生の発想は思いもよらないものが出てくる

清原先生の本音「スタート当初はそれほど役には立たないのでは…」と思っていたが、地域住民との関わりの中から学生たちはどんどん成長し予想を越えた。

地域の人知らないことを聞き出して伝える、その技術をみにつけただけでも素晴らしいこと。頑張ろうとしている地域に足りないマンパワーを、学生が担っていけるんじゃないかと考えている。

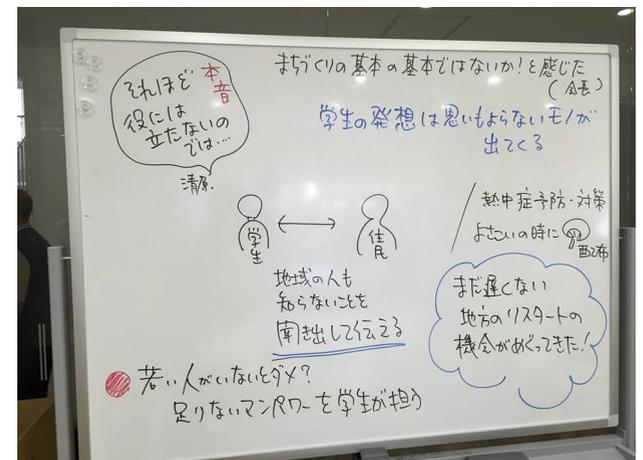
※まだ遅くない！地方のリスタートの機会がめぐってきた！

話題提供者

清原泰治さん／高知県立大学

学長特別補佐

地域教育研究センター長



高知こどもの図書館について

「こんなことやりたい」という思いを様々な協力の輪を拡げて実現していった事例について学んだ。

話題提供者

古川佳代子さん／高知こどもの図書館館長

20年前、1995年頃に県立図書館移転構想が発表された。「現在の建物はどう活用されるのか？こどもから大人までみんなが使える図書館になるといいのに！」と本好きな仲間たちが活動を開始。

知事から「たくさんの“必要”の声が県に届けば」と言われれば6000名分の署名を集め、場の無償提供を受けるために法人格が必要となればNPO法人を立ち上げるなど、『夢の県立こどもの図書館』設立に向けて動いた軌跡を伺った。

※詳しくはホームページを→「高知こどもの図書館について」

<http://wwwa.pikara.ne.jp/kodomonotoshokan/about/about.html>

最後にまちづくり委員会を代表して公文会長が「当時の行政が要望を受けて作ったより、こうして市民の熱い思いで作られた図書館でよかったはず、素晴らしい取り組みに感動しました」と感想を述べると、古川館長は「なんて嬉しい言葉、涙が出そうです！」と感激していた。



高知市地域コミュニティ推進課の取り組みについて

高知市市民協働部地域コミュニティ推進課が取り組んできた、「行政依存ではない住民主体の自治」について学んだ。市民参画による高知市コミュニティ計画の策定及び実施やコミュニティの再構築の取り組み、また市民参加型まちづくり条例の策定など具体的な取り組みについても話を伺った。

話題提供者

森岡真秋さん／高知市市民協働部地域

コミュニティ推進課課長補佐

明坂通子さん／高知市市民協働部地域

コミュニティ推進課課長補佐

高知市市民活動サポートセンターとNPO 高知市民会議について

【高知市市民活動サポートセンター】市民が行う自由で営利を目的としない社会貢献活動（市民活動）を支援する目的で、1999年4月に設立された公設民営の施設。

【認定NPO法人NPO高知市民会議】市民活動やまちづくり活動を支援する非営利の市民団体で、1999年4月に高知市が設置した「高知市市民活動サポートセンター」の運営に携わるとともに、「自分の得意分野を社会に生かしたい」、「ボランティアに参加したい」、「仲間を集めて社会活動をしたい」、「なにか社会貢献をしてみたい」などの個人や団体の活動を支援するさまざまな活動を行っている。

上記の運営体制や実施している事業内容、主なプロジェクトなどについて学んだ。

◇寄付ぎふとプロジェクト・・・寄付あつめの新たな仕組みについての紹介

◇とさっ子タウン・・・子どもたちが現実の社会やまちに関心をもてるようにと、市民や学生約100人の実行委員会で運営するプロジェクト。毎夏約400人のこども（小4～中3）たちが、2日間にわたって就業、納税、投票、議会運営などを体験している。

参加委員からは「香美市でも”かみっ子タウン”を是非やりたい！」という感想も出た。

話題提供者

尾崎昭仁さん／認定NPO法人

高知市民会議事務局

